

あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和8年3月31日 249号
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



春満開！
笑顔の花が咲きました

年度末を迎え

園長 天良 昭彦

春のやわらかな陽ざしに、季節の移ろいを感じる頃となりました。令和七年度も、駿豆学園の歩みにご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

この一年を振り返りますと、利用者の皆様一人ひとりが、それぞれのペースで日々を重ね、笑顔や達成感を分かち合う場面が多く見られました。外出や行事に向け新しいことに挑戦する姿は、私たち職員にとって大きな力となって何よりの励みであり、支援の原点を改めて考えさせてくれるものでした。

また、日々の支援は決して施設だけで成り立つものではなく、ご家族の皆様、地域の皆様、関係機関の方々の温かい支えによって支えられていることを、改めて実感した一年でもあり、心より感謝申し上げます。

社会環境が変化し続ける中であっても、私たちは利用者の「その人らしさ」を大切に、安心して過ごせる場であり続けることを使命として参ります。そして、利用者の皆様が

地域の中で豊かに生活できるよう、より一層の支援の充実に努めて参りたいと思います。

今年度は地域の方、利用者、ご家族、行政の方にお集まりいただき地域連携推進会議を開催しました。利用者が地域社会の一員として安心して生活できるよう、地域との連携を強化し、サービスの透明性と質の向上を図るための会議であり利用者地域住民の関係構築や、地域住民の施設・利用者への理解促進を指す、とするものです。施設のさらなるオープン化と、それぞれの立場の方々の視点で施設内の見学や我々の説明を聞いていただくことで、率直なご意見をいただき支援に反映できるように今後も毎年開催して参ります。

また、障害者支援施設における利用者の地域移行等意向確認に関する指針を整備し、全施設入所者が地域での生活を希望するかどうかを確認し、その意思決定を支援する取り組みが令和八年度から義務化されています。今まで利用者の意思決定について試行錯誤し努力してきましたが今後、職員のさらなるスキルアップの必要性を感じています。

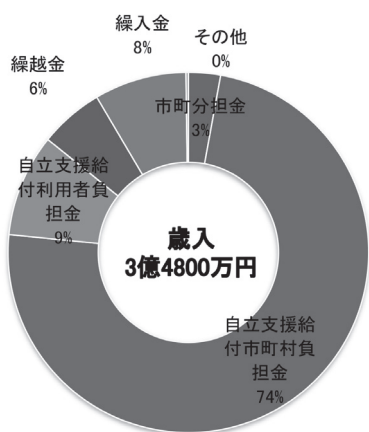
結びに、新年度に向け皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和八年度当初予算について

総務課長 山口 深志

令和八年度当初予算が、去る令和八年二月二日の組合議会において可決成立しましたので、ご報告いたします。一般会計予算は、歳入、歳出それぞれ三億四千八百万円を計上し、前年度当初と比較すると六百万円、約一・八%増額の計上となりました。主な予算科目について説明します。

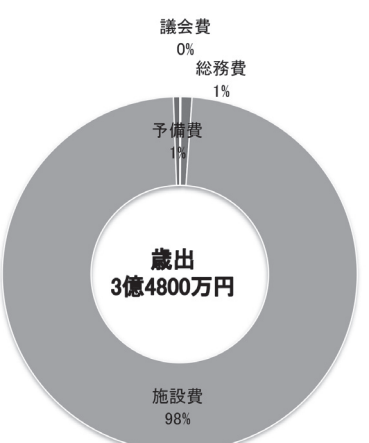
歳入ですが、収入の七十四%を占める、自立支援給付市町村負担金を前年度と同額の二億五千六百五十万円計上しました。令和六年度の報酬改定により歳入が増額となりました。令和八年度までは安定した収入が見込まれます。施設長寿命化工事に充てる施設整備基金繰入金を前年度比



二十五%、五百七十五万円増額の、二千八百七十五万円計上しました。

次に歳出ですが、議会費については、前年度と同額。総務費については、約二十二・五%、九十六万円減額の約三百五十万円計上しました。令和七年度は、例規集の追録など支出が多かったのですが、令和八年度は予定がないための減額となりました。施設費について、前年度比約七百万円、二・一%増額の約三億四千二百万円を計上しました。増額的主要原因として、人件費の上昇による給料、手当、共済費等の増額。物価高騰により給食原材料費などの需用費や使用料等の増額が挙げられます。

令和八年度で学園建設から二十五年となります。修繕箇所も増えていきますので予算の範囲内ではあります。適切な管理を行なっていきます。



福祉体験学習

支援課長 木村 悦治

本年度六月、静岡県社会福祉協議会主催の「福祉のお仕事魅力発見セミナー」の依頼を受け、土肥小中一貫校の八年生（中学二年生）を対象

に福祉の仕事についての講話と本園利用者との福祉体験学習を行いました。昨年続き二年目となりますが、講話では、駿豆学園の沿革をはじめ、福祉の歴史や制度についての説明と後半は施設利用者の生活の様子や行事について話をしました。また中学生時に本園での体験学習に参加した職員から、福祉の仕事に就いたきっかけや体験談を発表してもらい、先輩からの語りに、福祉について少し身近に感じることができたのではないかなと思います。

体験学習は本園にて二回行い、十月の二回目では参加する生徒の皆さんからレクリエーションを考えたいと提案され、事前に職員もアドバイザーとして参加し計画をしていき、風船バレー、すごろく、モルックが企画され実践されました。当日は生徒の皆さんが進行し、ゲームの説明等も丁寧にわかりやすく行われ、利

用者の皆さんもとても楽しく参加をしていました。何より生徒の皆さんが積極的に声をかけ盛り上げてくれたことが印象的で、私たち職員も学ぶべきところがあり、とてもよい交流ができたと思います。

福祉体験学習も徐々に再開してきており、土肥小中一貫校の生徒さんは、この体験を機に学園行事のボランティアにも参加をしてくれています。また以前には近隣の学校等からの受け入れも行っており、今後積極的に受け入れをしていき、福祉の役割や魅力を伝えていければと思います。

本年度も様々な活動を通して、利用者の皆さんは健康に元氣よく過ごすことができている。中でも外出やリフレッシュツアー、オレンジマラソン、そして各市町で開催されたふれあい広場等、対外的な活動が増えていくことは利用者の皆さんの楽しみであると共に、社会参加に繋がっていくものと思います。

関係された方々、ボランティア、そして地域の皆様の温かい支援に感謝し、更に福祉の輪を広げていき、地域に貢献できる施設にしていきたい、職員一同取り組んでいきたいと思えます。

環境の変化に対応できる身体を！

看護師 山田 美津子

地球温暖化の影響で年々気温が上がりつづいています。特に夏の暑さは、本当に生命に危険を及ぼす程になり、昨年の夏は、熱中症特別警戒アラートが出る事が多く、室内で過ごすことが多かったと記憶しています。そして、秋から冬にかけて、いっぴなく、体調を崩すことが増え体力の低下を実感しました。今思えば、やはり夏に暑熱順化（体を暑さに対応させる）を行わなかったためかと思えます。冬になり寒さに負けず外へ出るように心掛けてみると、体調も良く、気持ちも前向きに考えられていることに気づきました。

人間の身体は、それぞれの環境に順応できる能力が備わっているのです。その能力を生かせるような生活をして、健康に楽しく元氣に過ごしたいものです。

利用者さんも同様で環境の変化に対応できる体力を備えられるように個々の体力に合わせて、暑熱順化、寒冷順化を心掛けていきたいと思えます。

インフルエンザ！我が家の場合！

栄養士 鍵山 智美

インフルエンザウイルスが猛威を振るったこの冬。我が家でも打ち勝つことはできませんでした。一人でA型・B型に感染した長女・感染してしまったことは仕方がない、と気持ちを切り替え、他の家族に感染しない為の対策をとる行動に移りません。といっても特別なことではありません。感染者は隔離、世話をする担当を決め（我が家の場合、大抵私ですが）全員マスク着用、手洗いはいつも以上に念入りに等々。

緊張感が漂う中で、熱が下がった、食欲が出てきたと回復の兆しが見えるとホッと一息つきます。予防接種だけではなく、飲めば感染しない夢のような薬が開発されないかと考えてみたりしますが、規則正しい生活を送り、免疫力が強い人は感染しにくい傾向があると聞いた時、日頃の生活状況を思い浮かべ、改めて反省する自分があるのでした。



あおぞら班



日中活動



大地班



外出風景





おやつ



スポーツ



各クラブ活動風景



音楽



美術





ふれあい広場

―善意を寄せられた方々―

○斎藤昭則様

○金刺甚一郎様

皆様のご厚意に御礼申し上げます

ボランティアのお願い

学園では、繕い物や草取り、その他の軽作業等の出来る方を募っています。短い時間でも結構ですので、駿豆学園にお出かけいただけないでしょうか。お待ちしております。

【お知らせ】

面会をご希望の方は、事前に電話にてご確認ください。パソコン等を利用したりモートでの面会も実施しております。駿豆学園ホームページでもあすなろを閲覧出来るようになっていきます。アドレスは

www.sunzugakuen.jp/ になります。ぜひ御覧ください。

編集後記

ウグイスが鳴き、桜のピンクや菜の花の黄色に、心が華やぐ心地よい季節になりました。これから増々、屋外活動が楽しくなりそうです。今年度も皆様のご協力により、楽しく充実した日々を過ごす事ができました。これからも、利用者の皆さんが毎日笑顔で過ごせるよう支援していきたいと思えます。来年度も、よろしくお願ひします。